

獨占の制限と競争の永存（承前）

上山 辨太郎

普通、トラストと稱せらるゝ種類の産業同盟を組織する人達が、一般公衆特にその内に含まるゝ數多の投資者に對し、自分達の計畫を示めさうとする場合の主張を吟味して、之を私の友人が列舉せるトラストの利益と比較するのは、興味あることである。私は、彼等の主張を……新聞紙の廣告欄に載つて居るのも、又株式、社債の應募勧誘の爲めに彼等の代理店から送付して來る回狀に載つて居るのも、二つながら研究したことがある。該の種の比較に依りて明かにさるゝのは、合同に加入して資金を投下する人達の希望が、此等の文書によく表現されて居るといふことである。これに關する多くの事例を與ふところの回狀並新聞紙の廣告欄は、私の手許に澤山あるが、アメリカン・タイプ・フワウンダース會社の優先株廣告は、その好適例の一である。それから少しく引用することゝする。

先づ第一に、注意を惹くのは、合同に包含さるゝ二十有三の會社、商會を擧げてあることゝ而して「賣主の説明」に依れば、此等の會社、商會が「合衆國に於ける全生産高の約八五パーセントを製造、販賣する」といふことである。數次の關稅改正が亞米利加のタイプ輸出業に打撃を與へ得ざるは、その事樂の優越することに因る旨を述べてから、過去に於ける巨額の經費は

將來縮少され、見切値段はその跡を絶つであらうといふことが、主張されて居る。事業の集積は大多數の支店を二重に設置することより生ずる營業費並家賃」を節約し、且「仲立人への手数料」をも支拂はないで済し得るといふことが、述べてある。これ迄、各鑄造所に於て發行して居た見本帳に於ても、それが只一回の發行に二萬弗以上の費用を要して居る關係上、一大節約が行はれ得るといふことが、主張してある。又新意匠製作の經費に於ても、大ひに節約し得る見込がある、蓋し新意匠は競争會社との對抗上「大經費」を投じて設備を二重にする必要があるからである。

蒐集して居る廣告並回狀の全部に就て檢べても、形式こそ種々あれ皆同一の内容を有するものゝみであつて、之と相違する點は殆んど發見されないと言つてもいい位である。又ゼー・ダブルユ・ゼンクス教授が、合衆國産業調査委員の「産業同盟」調査用として編纂したる質問摘要録にも、右と同一の諸點が掲げてある。

偕、凡ゆる事業をして獨占たらしむる諸原因を捉へ、而してその一つ々に統て吟味しようと思ふが、先づ讀者諸君に於ても今一度、大規模の生産必ずしも獨占的生産を意味するものにあらず、といふことを思ひ泛べて頂きたい。但論を進むる前に斷つて置くが、私は此議論の孰れに對しても、辯護しようといふ意思を徹しも有たない者であつて、つまり産業社會を形成する勢力を科學的に研究したいといふのが私の希望である。それでも私は、實際のところ演繹的にも歸納的にも、數理的正確さに到達するに必要な材料を、只今手許に持合せて居ないので、

現在擱んで居る材料を自己の良心の指揮に従つて、解釋する積りである。

只今から、友人の提論に就ての考察に移る。大生産者は購買上、特に貨物運送の場合に於ける鐵道業務の購買上、利益を享くるといふことが述べてあるが、獨占の一原因として、果して精密なる考査に合格し得るであらうか。抜目のない人が、大量の購買者すら困難とする程の安値で、少量の購買をなしつゝある例は、注意深い觀察者の日常目撃し得る所である「懸引」といふことは、大規模のものに於けると同様に、小規模のものに於ても「實行」し得る。尙ほ大量の購買をなさうとする人は、注意しないと其需要が價格を引上げるようなことがある。でかゝる際には、その作用の非常に大なることの爲めに起る大なる不利益を蒙らないように、その註文を分割することがまゝある。この事は、一般貨物の場合に於けるよりも、或種の貴重品の場合に於て著しいのが普通であるが、就中土地はその最も著しき例である。蓋し或制限されたる面積内に於て、可成りの購買をなさうとすれば、價格を非常に高騰させることは周知の事實であるからである。人口一萬の都市に於ける五十筆の土地の購買は、若し買手がその方法を謬らばその土地をして非常なる率に騰貴せしむるであらう。又一地方に於ける馬に對し大なる需要が起ると、價格を引上げなければ買入れ得ないのは事實である。此外實例は無制限に擧げ得る、が大量購買者でも斯く不利益なる地位に立つような場合のあることは、鋭い觀察眼を有する人々のまゝ看取する所である。

私に手紙を呉れたあの友人は明かに、生産者と大量取引をなす商人、例へば數年間に互りて

製造家の全生産高を購買する商人に就て考へて居たのである。従つて價格に於て讓歩さるゝことは疑ひなき所であつて、斯く商品の大量購買者が、大なる利益を有する場合は多々ある、が併かし之にも普通、制限がある。人は早晚最高度の有効點に到着し、それ以上に行つても、利益を擧げ得なくなるものである。同等の大量を購買する他の人も同様に大なる利益を享くるが故に、或外部の勢力例へば運輸機關の支配力のようなものゝ補助を受くるにあらざる限り、如何なる重要商品に付ても、その全供給を一人にて購買しようとすれば破産するに到るであらう。一時、大膽なるシカゴ取引仲買人が、大量購買に依りて、世界に於ける小麥供給の支配權を獲得しようと企てた際に、その價格はグンと騰つて、遂に彼を破産に導くような結果を生んだ。

鐵道貨物運賃は、事業上に重大なる役割を演ずる、即ち鐵道の恩恵を享くる製造家商人が、その恩恵に浴せざる製造家商人を事業界より驅逐し得る位に、鐵道貨物運賃は各方面の事業に於て、營業費の大部分を構成して居るものである。この事は全部承認すべきものではあるが、併かし茲に一言し置く可きは、鐵道が只一人から大量の積荷を獲るに都合よきように、作製し得る所の割引運賃にも制限ありといふことである。鐵道が小口の場合よりも貸切の場合に對し運賃を低くし得ることは一般に認めらるゝ所であるが、これ以上割引し得るか否ふかは問題である。兎に角此の場合に於ても私達は、若し鐵道にして正直に經營さるゝならば、早晚貨物運賃上に於て、それ以上の利益を收め得ざる一點に到達するのを發見する、而して官營鐵道を觀ても、政府監督の下に於ける私設鐵道……………私設鐵道が法規に服従するものと假定して……………

を觀ても、比較的少量の積送品の場合に、此一點に到達する傾向がある。仍て茲に再び言ふ精密なる諸解剖も獨占の眞因を突き止め得ないといふことを。

あの手紙には、事業の大きさが増すに伴れて固定費は漸減するといふことが述べてある。この事は、第二類に屬する自然的獨占……事業そのものに内在する固有性に基いて生ずる獨占の場合に於ては、特別の範圍まで眞理にして獨占發生の一原因たることを失はない、鐵道の如き即その一例である。製造業にも、その發展過程の一定點に於ては、固定費と稱し得らるゝ位に比較的固定したる費用がある。一人の監督者を雇ひ入るゝとしても、その事業が大規模であるならば、その俸給は各個の貨物に分擔させるから、一個當りの生産費中に含まるゝ部分は比較的小さいものとなるであらう。或設備を必要とする場合にそれが充分に利用されるまでは勞務又は商品の各單位に割當てらるべき設備費の部分は、生産の増加に伴れて減少するであらう。

以上は凡て無條件で承認すべきことであるが、併かし私達がこゝに必要とする獨占の原因に就ては、何等の證明をも與へて居ないといふことをお答へする。最高の有效點は早晩到來すべきものなるが故に、固定費は事業の發展に伴つて新に生ずる。年俸千五百弗の監督は、一萬弗一萬五千弗若くはそれ以上の年俸を享くるものゝ敵でない。簿記は終に改造されて、より以上に經費を要し、建物も新築しなければならぬし、今迄無かりし新費用も現はれてくる。多くの大會社に於ける費用勘定の大項目は、詐欺にかゝつたり、盜まれたりすることを防ぐ爲めとか

勞働軍を整頓する爲めなどに大なる費用を要する、現に大會社中には目附人又は私刑事を澤山雇入れて居る所があるそうである。

一の富裕なる會社は資本を借り入れる必要がない、然し私達は、資本を借り入れる必要な所の多くの富裕なる會社を、澤山知つて居る。更に信用に依頼することが、慎重になされると恐慌に際會しても利益を増加し得るようなことがまゝある。かの一八九三年の恐慌に於ては、多數の小會社が危険を切抜け得たるに反し、大會社中には却つて破産するものが多かつた。

大資本は市場を買占め得るといふことが主張してあるが、これは尙ほ攻究を要すべき點である。專賣特許が獨占となり、而して或場合に於ては他の獨占の原因となることは、私も之を承認するが、之は特種の事業に於ける專賣特許の價值に關するものであつて、一製造家の有する專賣特許が、他の製造家の有するそれと相殺さるゝことがまゝある。非凡なる才能はあり得るも、事業上に於ける無比の才能といふものは實際あり得ないものである。

私達の所謂獨占の範圍外に在る產業界では、以上列舉の五原因は多數の大仕掛の事業以外には何物をも生すべき傾向がない。

次に友人の書簡には、獨占となつて了つた曉に於ける獨占の利益が擧げてあるが、獨占の直接原因に非れば、獨占の利益とは何等の交渉も有たないものである。獨占の利益中には特殊のもの、即ちよしその事業が大規模に經營さるゝものであつても、競争事業に於ては見られないものがある。商業旅行人を廢したり、廣告費を縮少したり、華客に對する進物を廢したり、而

して不必要なる設備の重複を避けたりすることが可能なること等がそれであつて、換言すれば獨占の場合には競争制度の下に於ける浪費を節約し得るものである。然かし又反面には、その利益を抹殺するものがある、即ち一度獨占となるや、不注意となり無創意となり舊式に固はれ、經濟上の細かな點に頓着しなくなるものである。約言すれば非社會主義者は、個人的見地よりしても社會的見地よりしても、競争の利はその損失を償ふて餘りありといふこと、並にその結果、假令或一個の貨物が又は一種類の貨物の生産上に於て獨占が可能であるとしても、必らず競争が発生し來つて新生産者が産業界に地歩を占むるようなことがまゝあるといふことを主張して居る。

次に私達は、一般に所謂トラストなるものゝ表に轉眸して、而して現在の具體的情態が一般原則と調和して居るか否かを確むる爲めに、それ等を精密に吟味することゝする。此目的に於て私達は、極最近の二表……一は一八九九年の商業年鑑に載つて居るもの、他は一八九九年六月發行「評論の評論」所載バイロン・ダブルユ・ホルト氏の論文中にあるもの……を選ぶ。因に此二表は編纂者が、それ以前の發行に係る諸表の何れよりも、最も完全に近いものだと言つてゐる所のものである。該の二表は一見まざれもなく「産業的獨占に突進し」全産業界を席捲せんとする萌しを示して居るようであるが、一層精密に吟味すると、その推移が果して獨占的運動と稱すべきものであるか疑はしくなつてくる。これ迄公にされた諸表中に於て、最も整頓せる兩表が既に此の如くであるから他は推して知るべしである。

第一、仔細に吟味すると、此等合同にして最も廣い意味の獨占たり得るものは、比較的少數である。例へばカリフォルニア・ワイシメーカー・コーポレーション（カリフォルニア・ワイン・アスソシエーションと合併したる）の如きも事業を大規模に經營するといふ一般的思潮の一部と見る以外には何等の意義をも有たないものであつて、競争はこのトラストが成立してからも依然として存在し、表の一に示されたるユナイテッド・フルート・カンパニー又はシトック・グレープ・グロワース・ユニオン時代と何等の變りもなく、競争は廢せられて居ない。アメリカン・バイシクル・カンパニーも他の多くの合同と同様に、合同組織に向つて進みつゝありとこのことである。然かし今日までのところでは、自轉車製造販賣上に於ても競争が行はれる爲めに、多數の會社は收支相償ふことさへ困難なる實情である、従つて一般購買者は專賣特許の與ふる比較的重大ならざる妨害を除いては、競争の利益を充分に享受して居る譯である。それでは、斯業に於ける競争廢止の實現は、前途尙は遼遠だと觀測して居る。

此等の合同に於て注意すべき他の事柄は、數多の會社が同一區域内に營業することにして、競争は此くして培かはれるのである。此表中に存するアメリカン・グルーコス・シュガー・リファイン・アイエング・カンパニー（反對會社）の如きその一例である。又私達は、麥酒釀造會社に就て數多の合同を見受けるが、併かし麥酒は非常に長い距離に輸送されるからして、一都市に於ける麥酒釀造業が合併して一會社となつても、獨占らしい形は一つも發見されない。又ニューヨーク・イングランドに於ける乾物卸賣商の合同も、其供給品の購買に於て、乾物小賣商から競争の利益

を奪ひ去ることは不可能のようである。

第二、表中には私達の所謂獨占に屬する多くの事業を含んで居るようであるから、その範圍に於ける主張に付ては、全部之を承認する。獨占事業は競争界の埒外にありと私達は認むる。

第三、ホルト氏は、その論文中に特別貨物運賃のこと及び鐵道と他の獨占との關係に就て、再三繰返して述べて居る。彼曰、「アーモアー、スウィフト、モーリス及びハーモンドが家畜と肉類とに於て有する眞の獨占は、主として事業の集中、大資本の投下、並にかゝる偉大なる販賣業者及運送業者が貨物運賃とか肉類肉製品の分配とかに於て收得する利益とに依るものにして、家畜の仕入價格とか肉類の販賣價格とか（尤も兩方面に於て價格を定むるも）に關する正式合意に依ることは尠いものである」と。その全部が明瞭といふ譯ではないが、併かし彼等が貨物運賃に於て利益を有するものだといふ説を、或は強く主張し或は單純に敘述して居る點は明瞭である。私の考へに依れば、彼等は停車場の設備利用及家畜留置所の使用等に於て、貨物運賃に於けると同様の大利益を有するようである。尙ほ進んで次の如く言つて居る「今日私達が大きな關係を有する所の大産業トラストは、一八七二年に始めて生れ出たもので、生産者と運送者との同盟に依りて無煙炭合同が成立したのもその時であり、而して今日のスタンダード石油會社が其利害關係人の調和的行動に依つて産聲をあげたのも亦その年である」と。私達は、無煙炭トラスト及スタンダード石油會社に付ては既に言及して居る「尤も私達は運炭鐵道が、石炭會社と密通なる關係を有して居ること、並に鐵道中には炭田の大所有者たるものがあること

を知つて居る、レーハイ・ワーレー、ラツカワナ及リーディン鐵道の如きその一例である。

又ホルト氏の論文中には、スタンダード石油會社が他の精油會社よりもズツと廉い運賃を利用して居ることや、或る場合に於ては他の會社より取立てたる超過運賃を、スタンダード石油會社に交付することなどが述べてある。もつと極端なる事例を求むれば、よく繰返され而かも裁判所に於て證明されたる一つの物語りがある。それはオハヨ鐵道會社がオハヨ・マリエッタのジョージ・ライズ氏より三十五仙の運賃を徴しながら、スタンダード石油會社へは同一條件の下に、同一距離へ送油するのに十仙の運賃を課し、その上割戻として右三十五仙の内より二十五仙を交付したといふ話である。此の如き情態の下に於て、競争が不可能であることは勿論である。

ホルト氏は、バイブ・ラインスに就ても次の如く論及して居る。「獨立せる精製油會社は、鐵道から公平な待遇を享けないので、一八、九八——九九年に資本金五百萬弗を以てタイドウオター・バイブ・ライン會社を組織した。所が鐵道では、直ちに毎バーレル一弗十五仙の石油運賃を八十仙、三十仙、十仙といふ工合に逐次引下げて、遂にその一鐵道の貨物掛をして、貨物の運賃は車輪の油代にも不足すると、啣たしむるに至つた程である。このタイドウオター・バイブ・ライン會社は幾多の攻撃を受けながら一八八三年まで存続したが、終にトラストに併呑された」と。私達は茲で再び、運賃引上げのみならずその引下げも亦、その競争者を破滅させるものであるといふことを知り得る。

運送上此等の利益を有するとき、生産を制限して以て價格の引上を爲さうと計畫するのは至極當然の事である。生産制限に努むる主たる理由は、從來石油價格が久しい間非常に低廉であつて大なる成功を收め得なかつたことに在る。價格引下げは大量生産品販賣の唯一の方法であつた。生産制限の努力は將來もつと成功するかも知れぬ。

有名なる經濟學者にして且つシカゴに於ける學校の管理者たるイ・ベンジャミン・アンドリュース博士も、兎に角次の如き興味ある敘述をなして居る。

『一八八七年十一月一日、スタンダード石油會社の當事者は油田の生産者保護協會と契約したが、その契約に依りて、本社所屬の五百萬バレルは少くとも毎月一萬七千五百バレルの原油生産制限に關する協會の利益の爲めに、別に取つて置かれるととなつた。紐育スタンダード石油會社は實際にその契約に署名したが、生産者協會ではそれを信託に附するものと解釋し且その通りに宣言した。若し年末に生産が豫定額に減少されたとすれば、この石油一バレル當り六十二仙以上に賣却される部分は、皆生産者協會の利得となる事になつて居た、尤も倉敷料、火災保險料は最初に引き去られるのである。此契約の一部を有效ならしむる爲めに、生産者協會はウエル・ドリラス・ユニオンと契約して、石油百萬バレルに對し毎バレル六十二仙以上の利益を彼等に與ふることに同意し、而して他の百萬バレルに對する利益を、油田全體の鑿井、油井掃除を拒む約束に對する報酬として支拂ふ事を約した、……鑿井者は此利益を石油と稱して居る。此契約締結後の平均減少高は、一ヶ月二萬五千バレルであつた。多

分七千バーレルの範圍までは自然的減少であつたらうが、その他は閉鎖の結果であつた。』
又ホルト氏の論文中には、製紙業者の合同に就て述べた個所もある。

『トラストが組織されて間もなく、紙價は到る所に於て引き上げられたが、其内の三ヶ所に於ける紙價は毎噸十弗に引き上げられて居た、而してそれは一日の生産萬四千四百二十噸に對し、毎噸平均五弗の値上げとなり、結局現在一ヶ年二千萬弗以上の用紙を使用する所の全米國の新聞に對し、年額二百十三萬弗の増税を課するのと等しくなる譯である。然かし新聞事業經營者も、トラストが廉價に製紙する上に於て缺く可らざる水力電氣と紙材地域とを獨占する必要があるといふトラストの主張を承認した。それで内地の競争は、少くとも現在に於ては不可能である。製紙工場は千五百萬弗で設立し得べきも、水力電氣並製紙原料地は如何に高價を支拂つても、手に入れることが可能ない。

於茲私達は、獨占の原因が製紙原料並水力電氣の有限なることに存するを知る、而して之れは私が主張したる理論を、他の方面から確證したものに外ならないのである。

産業社會に關する預言の頒分……多數の人々に執つて不幸とせらるゝ侵入……に踏み入らないでも私達は、外部の幫助を受けないで、單なる資本の集團又は單純なる合同に立脚せる有力なる獨占の存在を示した者は、未だ曾て一人もないといふことを忌憚なく言ひ得る。

尙ほ又競争上に要する巨大資本の募集は、何等の困難をも伴はない、よしそれが利得を生むまでに長い期間を要するとしても、例へば、米國出版會社は或一事業に、利得を生まない前か

ら、喜んで百萬弗を投じたといふことであるが、確かなる筋の報道に依れば、その百萬弗と稱するのも内輪に見積られたものゝようである。又實業家にして、「競争の機會」ある所に於て躊躇するようなものは一人もない。石油事業が現在獨占たることは事實であるが、それでも尙ほ二、三の競争者がある、而して同等の輸送便宜さへあらば、精製油業者も現實の競争者たるか少くとも將來の競争者たるべきものであるからして、若し輸送便宜を得るに至らんか、確かに競争の火蓋は切らるゝに相違ない。然かし茲で記憶すべきは、同等の賃率を與へらるゝといふことが、必ずしも同等の輸送便宜を得た譯ではないといふことである。此點に付ては既に充分述べて置いた、併かし私は競争の地位に立てる精製油業者と對談したことがあるが、その時彼等が輸送便宜に付て嘗めたる極度の困難を冷靜なる語調で繰返して居たことが、今尙ほ明瞭りと追憶される。瞞着は貨物等級に施される、即ち驚く可き方法を以て、貨物を一等級より他の等級へ移して貨物等級を瞞着し、破滅すべく運命附けられた人を害めるのである。曾て經營されて居た油田が、それからそれへと引續いて放棄さるゝの己むなきに至つたのも、主として鐵道の與へたる妨害に困るものである。

獨占と資本集團との關係に付ては、二、三參考事項を附記するの要である。若し資本の集團が、單獨で獨占を生むことが可能ならば、資本の集團と獨占との間には何かの比率が発見されなければならぬ筈であるが、併かし一般の事業に付て觀るも、資本の集團と獨占形成の勢力との間には比率らしいものは微しも見出せない。資本金五萬弗を擁する一小水道會社が人口三

千の村落で獨占となつて居る反面には、何百萬弗といふ資本を有する大出版會社共がお互に劇しい競争をして居る。で事實、競争は資本額の増加に隨伴して劇しくなるものだとも謂ひ得る譯である。商業とか製造業とかに於ては、各自數百萬弗の資本を有しながら、お互に競争して居るのに反し、市街鐵道會社は、十萬弗の資本を以て完全なる獨占の分野を有つて居る。それで私達が各種の事業に就て立論する場合は、事業その物に即して論せなければならぬと言ひ得る。然かし現在入手せる資料を基礎として判斷すれば、その場合に於ても異つた結果に到達するようなことはなさそうである。若し私達が「評論の評論」並に商業年鑑所載のトラスト表……前出記事參照……を採り、事業の性質に依る分類方法にてトラストを排列し、その一つ々に就て調査して私達は、資本の集團と獨占たり得る範圍との間に於ける比率に近似したるものとか、獨占に向つての進歩とかいふようなものは、何一つ發見することが可能ない。

私達の現に有する知識を以てしては、資本の集團と獨占力との關係を發見することは可能ないが、獨占力と既に述べたる他の條件との關係は、之を發見し得る。私達は獨斷を避けなければならぬ、具體的條件に關する私達の知識は不完全なものである。或種の事業では、やつと生存して行くだけでも、大なる資本の集團を要するが故に、極少數の合同……例へば六個位……のみが、之を供給し得るに過ぎないようである。若し如此ことが何れの場合に於てかありとすれば、資本の集團は、疑ひもなく獨占の設定に好都合なる條件を有する譯である。然かし今日までの所では、如此種類のものは何も示されて居ないと斷言し得る。於茲も數時代に互り

て是認さるゝ意見に反對するような經濟學上の主義とか近世産業社會の經驗に反するような經濟學上の主義等を唱道する人達に、その立證の責を負はすのは敢て不當ではあるまいと思はれる。最低生存能力を維持する上に於て、資本の大集團を要する事其ことが、獨占に好都合なる他の條件に出會ふ時に獨占の成立を助成するといふことを承認するのは不當ではない。然かし有望なる事業の爲めには數百萬弗の資本も容易に募集し得べき事を知る時私達は單なる資本の集團が、補助的條件としても差程重要視する必要がないといふ結論に到達する。

それで私達が現在の産業情態を解剖したる範圍内に於ては、競争が永存的社會力であるといふ心證を棄つべき何等の理由もないと結論し得る。競争は人間の天性に胚胎するものであり、而して又自然界の法則に基いて發生するものであつて、人間は競争といふ作用の下に於て日々のパンの爲めに働かなければならないのである。ギイツディング教授は此眞理に付て、次の如き哲學的敘述をなして居る。『或種類の競争が永存的經濟方法であるといふことは、勢力保存の意義に外ならぬ。不同の勢力を有する各單位の集合する場合には、其必然的結果として不同の活動が生ずる。地球上の凡ゆる方面に存在する環境の複雑さと、而して遺傳に關する無限の變化とは同等の勢力を有する個々人を以て社會を組成せしむることを不可能ならしめる。それで市場の競争が抑制されて居るような場合には、私達は如何なる勢力に依つてさうなつたかを研究する必要がある。尙ほ私達は市場の競争が事實上如何なる程度まで抑制され、又は他の形式に變化されて居るかを研究し、且つ如何なる範圍に於て各合同が結合され、而して有効に行はれ

て居るかを研究しなければならぬ。合同の釣合は、如何に最眞目に見ようとしても、不安定のものであるに違ひない』。

それで私達は此事を次の如く結論する。

「私達が現在知つて居る範圍内に於ては、獨占附屬の一大分野があるが、此分野以外にモウ一つ他の分野ありて、その内に於ける競争は正當なる條件の下に在る限り、永存的社會力である。尙ほ私達は、産業上の競争が自滅的のものであり、而して獨占への進行上に於ける必然的經路であるといふことを主張するところの人々に、之が立證の責任を負はせる」。

了

滿蒙砂糖事情

本論文は大正十二年二月十一日紀元館の佳辰に當り發表したる滿洲懸賞當選文なり

田 中 行 雄

目 次

第二章 滿蒙砂糖事情の概観

第二章 輸移入糖

第一節 南滿の輸入糖

第一款 總 説

第二款 輸入糖品種別

1、日本糖 2、香港糖、3、日本糖と香港糖との差異 4、瓜哇糖、5 移入支那産糖

第三款 砂糖輸入港別（略）

1 大連 2 營口 3 安東